

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：12701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24730672

研究課題名(和文) 社会化による個性化という自己形成に関する研究

研究課題名(英文) Research on Self-formation based on individualization through socialization

## 研究代表者

藤井 佳世 (Fujii, Kayo)

横浜国立大学・教育人間科学部・准教授

研究者番号：50454153

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)： 社会化による個性化という自己形成は、相互主観性にもとづく自己形成をどのように捉えるかに眼目がある。相互主観性による自己形成は目に見えることではない。そのため、子どもの成長プロセス、コミュニケーションと相互性、承認という媒体を経ることによって、自己の発展に寄与する承認と世界を切り開くコミュニケーションが織り重なる自己形成の場所を提示することができる。相互主観的な関係における傷つきやすさを含み入れた自己形成論は、自己実現にともなう苦悩や葛藤の現れを語る行為から示され、反応の多様性から考察される必要がある。その射程は、民主的な意志形成に広がる。

研究成果の概要(英文)： Self-formation as individualization through socialization based on the intersubjectivity. The thing is center. Self-formation isn't to be visible. Therefore it's important to show the location of the self-formation where the recognition which contributes to subject's development is related to the communication which the world is opened through child's growth process, communication, reciprocity and recognition. Self-information's theory includes vulnerability in the intersubjectivity. That's indicated from the act man tell about distress and conflict with self-actualization. Bildung have to consider from diversity of a reaction in a mutual act. Its area expands into democratic will formation.

研究分野：教育哲学

キーワード：教育学 人間形成 自己形成 社会化 個性化 ハーバーマス ホネット ストヤノフ

## 1. 研究開始当初の背景

教育学におけるハーバーマスやホネットの理論にもとづく人間形成論では、相互主観的な関係における自己形成が論じられてきた。例えば、ハーバーマスのコミュニケーション的行為と教育的行為の重なりを指摘したマッシェライン(Jan Masschelein)は、ハーバーマスのコミュニケーション論における教育学的重要性を「相互主観性を通じた自己形成」にある、と論じた。マッシェラインによれば、こうした自己形成は、常に繊細なネットのなかでなされており、「理念化された人間像に依拠する自己形成ではなく、状況に即応する『コミュニケーション的アイデンティティ』の形成である」とされる(『Kommunikatives Handeln und paedagogisches Handeln』1991年)。また、ホネット承認論を文化的差異の承認という人間形成論の観点から読み直したストヤノフ(Krassimir Stojanov)は、ホネット承認論の教育学的重要性を「相互主観性を通じた自己形成」にみている。ストヤノフは、次のように述べている。「相互主観性に媒介された自己形成という他者による受け入れを前提とする視点が重要である」(Stojanov, K.(2010):“ Bildungsprozesse als soziale Geschehnisse,” in Vierte ljahrschrift fuer wissenschaftliche Paedagogik 86, 558-570)。だが、これらの研究は、原子的自己ではなく構成的自己、あるいは他者を必要とする自己、という自己形成のありかたを提示するにとどまっていた。そのため、どのように自己が形成されるのか、そして相互主観性を通じた自己形成へ至る理論的経路が明確ではなかった。

## 2. 研究の目的

社会化による個性化という自己形成のありかたを明らかにし、相互主観的な関係における傷つきやすさを含みいれた自己形成論を提示する。

ハーバーマスとホネットにおける自己の捉え方を明らかにする。

社会化による個性化にみられる相互主観性における自己形成の特徴を明らかにする。

人間形成論の視点から社会化による個性化にみられる自己形成論の可能性を示す。

## 3. 研究の方法

(1) 常時、ハーバーマスとホネットのテキスト、論文の収集、関連する文献、人間形成論の収集をおこない、それらを解読・分析する。とりわけ、社会化による個性化、道徳論、自己形成の議論を中心に解読をおこなう。

(2) 教育学における人間形成と社会化による個性化に関して、他の研究者と専門的な知識提供、意見交換を行う。

(3) 人間形成における感情的側面、傷つきやすさに関わる恥と承認の領域に着目し、どのように自己形成がなされているのかについて、それを明らかにする方法の検討を含めて考察する。

## 4. 研究成果

### (1) ハーバーマスとホネットの自己概念

ハーバーマスは、討議可能な主体であることに重点をおいた理論展開を進めている。討議可能な主体であるためには、目の前にある生活形態から一定の距離をとる普遍的役割交換が可能でなければならない。この普遍的役割交換という考えは、ミードの社会心理学における理想的役割取得の概念が下敷きとなっている。すなわち、ハーバーマスは言葉によって示される要求を理解することによって、いいかえれば、認知的次元を拡大することによって、第三者の視点を獲得し、次第にすべての人の視点をとることができる自律した主体へ至ると捉えている。

ホネットは、言葉を理解することは他者からの承認を下支えにして可能になっていると捉えており、感情的で情緒的な次元を含みい

れた主体の在り方を提案している。それゆえ、自律とは心的なグレードに関する問題であり、言語によって汲み尽くすことのできないアイデンティティの可能性が多様にあることが指摘される。こうしたアイデンティティ概念は、認知心理学からではなく精神分析からの影響を確認することができる。ホネットの捉える自律した主体とは、行為の衝動を不安なく分節化し、生の語りを関連づけ、道徳的コンテクストを感受するような主体である。そこで前提になっていることは、自己が自己を価値あるものとして感じとっていることである。自己を承認するためには、他者による承認が必要であるという承認論が自己形成においても核となる。ホネットにとって、感情や願望という情緒的次元は、即座に言語化できるようなものではなく、主体が確実に知っているわけではないが、相互にやりとりされる。そのため、自律した主体であることは、単なる認知能力以上のもの、感情移入能力を含む。したがって、情緒的次元を含み入れた主体は、その次元から構成される可能性を常に潜在的に秘めた主体である。

## (2) 相互主観性にもとづく自己形成の理論

「社会化による個性化」という相互主観性にもとづく自己形成は、大きく分けて次の三つの理論的背景がある。

フランクフルト学派における哲学的理論と経験的研究との結びつきを重視する観点である。ハーバーマスは、1968年に社会化に関する論文を書いているが、そこですでに、経験的研究との結びつきを考慮したうえで、人間の行為を解釈する枠組みの必要性を述べている。とりわけ、役割取得は、学習という観点から考えると、賞罰による行動規制とは異なる側面を有しており注目すべき行為となる。役割取得からシンボリックな相互関係へ目を向け、自らの欲求や考えを言葉にすることを通して相互主観性にもとづく自己形成へつながる。ハーバーマスにとってアイデンテ

ィティは、ある種の一貫した要求を満足させる言語能力と行為能力をそなえた主体の能力のことを意味している。アイデンティティは、認知的な前提に依存するが、社会的な相互行為のなかで形成される能力のことである。アイデンティティはまず社会システムに統合されるような「社会化」によって生ずるが、後に、そうした社会システムに対して自立するという「個性化」を展開する。この構想は、ゲームを可能にする役割取得論を展開しているミードの理論に影響を大きくうけており、生活世界と相互主観性の関係からとらえたドイツ現象学における考え方とは異なっている。

ホネットはデューイ思想に出会うことによって、相互主観性にもとづく自己形成の射程を広げている。たとえば、単なる手続き主義とは異なる協働にもとづく民主的な意志形成の視点が入っている。いいかえれば、自己形成に含まれる一つの側面として、民主シーの再構成に寄与する意志形成が重視されるのである。ホネットによれば、愛の関係である情緒的関係と法的関係のあいだに位置する学校教育において、相互主観的な自律へ向かう民主的な意志形成を育てる、という教育的課題が顕現する。この課題は、正義をめぐる問題につながり、倫理・政治的領域における自己形成という視点の重要性を示唆するものである。

相互主観性にもとづく自己形成は、個人か社会かという二分法によって捉えることの出来ない出来事を説明しようとする点に特徴がある。文化からの影響、自己と他者の境界そのものの不透明さ、切りわけることのできない世界や可視的になることのない領域における自己形成である。

## (3) 人間形成論と自己形成論の関係

自己の発展と世界を切り開くことが重なり人間形成は進められる。そこには、深い学習や育つことが入り込んでいる。そのため、

相互主観的な関係は、言語と感情という学習に影響を与える二つの側面から捉えることが重要になる。とりわけ、言語と感情の側面が結びあう承認関係に着目することで、自己を承認することによる自己形成の基盤の重要性が確認され、自己の発展と世界を切り開くことが重なる場合とそうではない場合の特徴が明らかになる。スタヤノフの見方によれば、ホネットの述べる価値評価の承認において、感情という承認形式の特殊的側面と尊敬という形式的な普遍的側面が統合され、承認の形式と自己の発展は重なりあう。

社会化による個性化のひとつの現れは、人間形成過程におけるアイデンティティ形成にみることができる。アイデンティティ形成は、自らの要求を述べ行為することを他者との相互行為や関係の網のなかで進めることによって可能になる。そのため、相互主観的な関係における傷つきやすさは、他者の受容的態度や積極的態度から発生するというよりも、反応（リアクション）から発生する。

社会化と個性化は、ある行為や出来事に対する反応の連続や非連続によって進められるのであり、とりわけ、反応の多様さが個性化を促進する。このことは、教育関係を反応の次元から捉え直す視点を開く。教育における均質さとは反応の一樣さから生じることであり、反応の多様さを活発に生じさせることによって、多様な人間形成のありかたが実現される空間が現れる。

#### （４）社会化による個性化過程を捉える方法

ハーバーマスに従えば、人間形成は、もはや、個人的行為にもとづく倫理的世界だけから成り立つことではない。むしろ、科学的に説明された世界理解にもとづいて行為に理論的な指針をあたえるようなコミュニケーションの世界も考慮しなければならないのである。いいかえれば、理論と実践の往還を人間形成論に求めているのであり、翻訳可能性を射程に収めた人間形成を構想する必要があ

る。

主体がどのように世界をとらえ自己を形成してきたのかを捉えるには、人間形成形態に着目する必要がある。社会化による個性化のありようが変化することについては、社会のなかで主観的な自己の意思や考えを実現することに伴う葛藤や苦悩として、自己を語るという行為のなかに現れる。その意味で、自己を語ることは、主観的なものと客観的なものが交差する場所を明らかにすることであり、自己形成の場所を提示することでもある。これは、社会化による個性化の「どのように」という側面を明らかにするには、生を語ることとの接続が重要になることを意味する。生の語りは、話しての記憶や感情をもとに編み直された物語である。生を語る方法としては、ナラティブ・インタビューによって、社会的なものとの個人的なものとの重なりを顕わにする方法がある。

#### ５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 ２ 件）

鳥光美緒子、中西さやか、藤井佳世、「人生の語りの視点としての『人間形成』」『中央大学教育学研究会』査読無、2015年、43-68頁

藤井佳世、「ホネット承認論と自己形成」『近代教育フォーラム』査読無、2012年、185-189頁

〔学会発表〕（計 １ 件）

藤井佳世、「ハーバーマスとホネットの思想を人間形成（Bildung）から読み解く試み」（ラウンドテーブル）教育哲学会、2014年9月、日本女子大学

〔図書〕（計 ２ 件）

ガート・ピースタ（上野正道・藤井佳世・中村（新井）清二訳）『民主主義を学習する

教育・生涯学習・シティズンシップ』勁  
草書房、2014年、1-251頁

ローター・ヴィガー／山名淳／藤井佳世『人  
間形成と承認 教育哲学の新たな展開』北  
大路書房、2014年、1-229頁

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

藤井佳世 (FUJII KAYO)

横浜国立大学教育人間科学部・准教授

研究者番号：50454153